



インドネシア共和国における国際緊急援助活動



第1輸送航空隊は、インドネシア共和国で発生した大規模な山林火災に対する国際緊急援助活動に伴う、航空輸送任務を実施しました。9月11日（金）小牧基地において空輸隊の編組式を実施し、9月14日（月）に隊員の見送りを受けながら、C-130H輸送機が小牧基地を出発しました。

本任務は、現地で消火活動に従事する陸上自衛隊CH-47輸送ヘリコプターの運用を支援するため、整備器材を迅速かつ確実に輸送することを目的として行われました。

空輸隊は安全を最優先に任務を遂行し、国際緊急援助活動の円滑な推進に寄与しました。9月18日（金）航空輸送任務を終えた空輸隊は無事に帰還し、第1輸送航空隊司令に対して任務完了を報告しました。第1輸送航空隊は、今後も国内外における各種任務に迅速かつ的確に対応し、災害救援活動等を通じて国際社会への貢献に努めてまいります。



第1輸送航空隊総合防災訓練



第1輸送航空隊は9月1日（月）、大規模災害発生時における対処能力の維持向上及び隊員の防災意識高揚を目的として、第1輸送航空隊総合防災訓練を実施しました。本訓練では、愛知県を震源とする震度7の地震が発生したとの想定の下、緊急登庁訓練、隊員の子どものに係る緊急登庁支援訓練、災害対処給食訓練、人命救助システム運用訓練、非常用給水装置による給水訓練、休息所の構築・運用訓練及び通信回線構成訓練を実施しました。

緊急登庁訓練では、隊員が徒歩又は自転車により参集し、安否確認及び初動対応要領を実施しました。また、隊員の子どものに係る緊急登庁支援訓練では、隊員が安心して任務に専念できるよう、子どもの受入れ体制や支援所運営要領の確認を行い、関係隊員の知識・技能の向上を図りました。

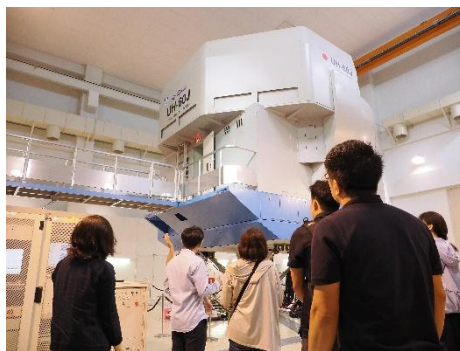
災害対処給食訓練では、給養小隊が屋外での調理を実施しました。厳しい暑熱環境下においても、食品衛生管理や熱中症対策を徹底しながら、災害派遣時を見据えた給食支援能力の向上に取り組みました。

人命救助システム運用訓練では、エンジンカッターやエンジン削岩機などの救助器材を使用し、廃材の切断やコンクリート殻の粉碎を実施しました。参加隊員は、実作業を通じて器材の操作要領と救助活動に必要な技術を習得しました。

非常用給水装置による給水訓練では、移動電源車から給電された装置を用いて水のろ過作業を行い、基本操作及び安全管理要領の確認を実施しました。また、休息所の構築・運用訓練では、活動隊員や被災者の受入れを想定した休息所を設営し、夏季の空調設備故障時における運用方法について検証を行いました。さらに、通信回線構成訓練では、基地内通信の途絶を想定し、可搬型衛星通信装置等を活用した通信網の構築訓練を実施し、通信基盤の迅速な確保に必要な知識及び技術の向上を図りました。第1輸送航空隊は、今後も各種訓練を継続的に実施し、災害発生時における迅速かつ確実な対応能力の維持・向上に努めるとともに、隊員一人ひとりの防災意識のさらなる向上を図ってまいります。



防衛・基地モニター所在部隊研修



9月25日（金）、防衛・基地モニターを対象とした小牧基地所在部隊研修を実施しました。

本研修では、航空救難団整備群、救難教育隊、小牧管制隊、小牧気象隊、航空機動衛生隊及び第5術科学校を訪問し、各部隊の任務や職種、保有する機能について説明を受けました。モニターの皆様には、輸送航空隊以外にも多様な部隊が存在し、それぞれが重要な役割を担っていることへの理解を深めていただきました。参加者は、普段目にする機会の少ない救難機や各種シミュレーター、機動衛生ユニットなどの装備品を見学するとともに、それらを用いる隊員から直接説明を受けました。隊員による説明に熱心に耳を傾けながら、多くの質問が寄せられ、各部隊の任務や活動への高い関心がうかがえました。

特に、災害派遣や救難活動に使用される装備品、航空機の安全運航を支える管制業務及び気象業務、迅速な医療支援を可能とする機動衛生隊など、多岐にわたる任務について理解を深めていただく機会となりました。

モニターの皆様からは、「小牧基地が担う任務の幅広さに驚いた。」「普段見られない装備や施設を見学できて大変有意義だった。」「といった声が聞かれ、小牧基地に対する理解と関心を一層深めていただく有意義な研修となりました。

